



すずかけ

令和6年10月9日

第9号

校長 鎌田 史顯

体育館に響く「平和の祈り」の優しい音色 被爆ピアノ平和コンサート



10月8日（火）、本校で「被爆ピアノ平和コンサート」を行いました。体育館には「原爆が投下された広島で奇跡的に残ったピアノ」が運び込まれ、ランプが灯され、千羽鶴がかけられました。そして、原爆の悲惨さと想像を絶する被害の大きさを物語るパネルが展示されました。

被爆ピアノを修復し、全国で被爆ピアノコンサートを実施されている矢川光則さんは、「広島からトラックを運転して1200 km、遠かったけれども皆さんにこのピアノを聴いてもらえることがうれしい」と語りはじめました。さらに、原爆の悲惨さや甚大な被害についてもお話いただき、「今でも世界では戦争が起こっているところもあるが、原子爆弾や戦争の悲惨さや苦しみ、悲しみを語り継いでいきたいし、平和の尊さを伝えるのが今の自分にできること」「ピアノはモノを言わないけれど、音楽を通して五感、聴覚に訴えるのが被爆ピアノ」とお話になりました。

今日、演奏していただいたピアニストは青山千紘さんです。青山さんはご自身が中学生の時に、山形一中でこのコンサートを聴き、「なんて優しい音色なのだろう」と感じられたそうです。その後、音楽の道に進まれ、数々のコンクールで優秀な成績を収められ、演奏家として活躍されている方です。演奏の最後には「さんぽ」の伴奏をしていただき、全校生で大きな声で歌いました。

広島から来たトラックの荷台から、貴重な被爆ピアノを先生方も一緒に体育館に運びました。ピアノに手をかけてぐっと近づくと、あちこちの塗装がこげているのがわかり、木が焼けた匂いがしました。このピアノが79年前、原爆が投下された広島の住宅の一室にあり、猛烈な爆風と3000度の熱波の中で奇跡的に残った場面が目には浮かびました。ピアノの音色はきれいで繊細で、優しいものでしたが、「平和」と「いのちの尊さ」を力強く語りかけ続けているように感じました。

コンサート後に、矢川さんがこうおっしゃったのには涙が出ました。

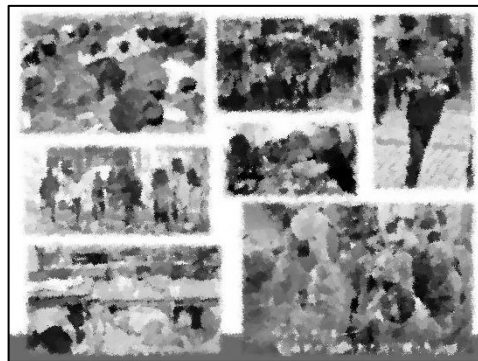
「今日のコンサート、ピアノが喜んでいた」



校長講話「避難訓練ちゃんとできた？」



スライドショーのタイトル画面



「日本中、全ての学校で避難訓練をしている」「日本以外の国々も避難訓練をしている」

9月24日(月)、全校朝会の校長講話として、11日(水)に実施した避難訓練についてのお話をしました。11日の訓練は「遊歩時」、つまり「先生方が近くにいない休み時間など」に地震が起こったことを想定しており、事前の予告なしでの実施です。地震発生の際、放送の指示で机の下に入り揺れがおさまるのを待ちます。揺れがおさまっても地震によって火災が発生したために、経路などについての指示を聴いてグラウンドへ避難するという内容でした。

急な警報で緊張し、放送の指示で迅速に行動できたものの、先生が駆けつけ、訓練とわかったために緊張がほぐれてしまい、グラウンドに整列する時にニコニコしてしまう児童がおり、時間も長くかかってしまったので、少し強めにお話をしました。

校長から

- ☐ 本当に地震があって、火災が起きたら、ニコニコできる？
- ☐ 自分が先に逃げたいと思ったら、全校生が避難できる？
- ☐ キーキーしていたら、どこに逃げるかの指示が聞き取れる？

おさない



はしらない



しゃべらない



もどらない



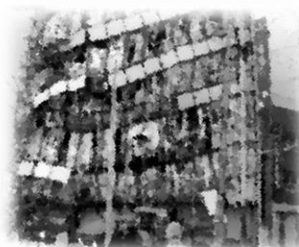
また、阪神・淡路大震災の時につくられた「お・は・し・も」について、一つずつ説明しました。阪神・淡路大震災について知らない児童が多かったので、高速道路が倒れた様子やビルの一つの階がつぶれてなくなったこと、多くの地点で地割れが起きたことを話しました。



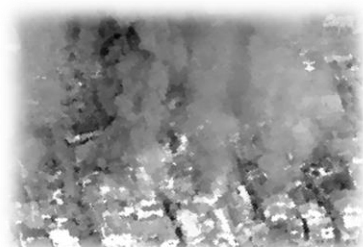
大阪で高速道路が倒壊



倒壊した高速道路に残ったバス



大きく崩れたビル



地震後に発生した大規模火災

学校には多くの児童がいますので、「自分勝手な行動」や「自分だけが助かろうとする行動」は『自分のことも他の人のことも危険にしまう』のです。「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」が万一の時に確実にできるように、訓練は緊張感を持ち、常に真剣に取り組みましょう！

「訓練は本当の災害時のように真剣に」

「本当の災害時は、訓練で繰り返したように落ち着いて」

『いのち』を大切に生きる

(1) 『いのち』を輝かせる

(2) 自分の『いのち』を守る

(3) 仲間の『いのち』も大切にし、守る